



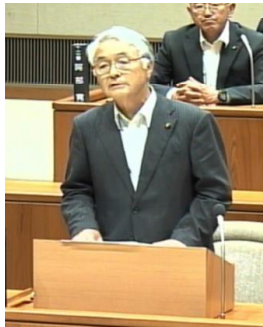
6月議会へ 一般質問 (加藤鉦一議員)

小中一貫校、ミクロとマクロの視点で聞く

教育長「地域の理解と合意、協力なくして進められない」

鶴岡市議会6月定例会6日の一般質問で、日本共産党の加藤鉦一議員が、①藤島地域における小中一貫教育、②旧町村の開発政策について、取り上げました。

学校一つになった場合の影響は



ミクロの視点では、藤島中学校の改築と隣接する藤島小学校の老朽化、文厚エリアの整備計画がある。

問 藤島地域における小中一貫校、義務教育学校設置の検討について、ミクロとマクロの視点で考えたい。

答 栄小学校に複式学級が生まれ、先生数が減らされる。こういった課題解決のためには、3つの小

学校と中学校との統合を一気にやったほうが、効率的で合理的だという判断がある。

義務教育学校を設置すると、学校建設費の国庫補助は3分の1から2分の1に増額され、過疎債も適用され、経済的にも有利だという判断が一番にあったのではないかと判断が

ミクロの視点での合理性の判断が、マクロの視点でどうか。人口9000人の地域に小学校も中学校もなくなると、義務教育

関 「物価高騰対策を」、知事 「検討する」

▽6月26日、予算特別委員会5項目の質問をおこないました。

最初に物価高騰対策について吉村知事に質問。「昨年度の県の物価高騰対策は、今年当初予算でかなり縮小した。内閣府調査で『現在の社会で満足していない』最多が『経済的なゆとりと見通しが持てない』63・2%で、2008年調査開始以来最多となっている」等を挙げて、「知事は、物価高騰下の県民生活の状況をどう認識しているか。昨年度のような生活支援・営業支援対策をおこなっていく必要があるのではないかと質問しました。」



「が相次いで発生しているが、この姿勢を一貫して対応してきた」、「エネルギー・食料品等の価格高騰から、県民生活と事業を守るため、きめ細かく対応していく必要があると考えている」

「現在実施している物価高騰対策に注力しつつ、県民生活への影響や県内経済を取り巻く状況を注視し、必要な施策を届けていくべく検討を進めていく」と答弁しました。

知事は、「心の通う暖かい県政を掲げ、県民の皆様の命と暮らしを守ることを最優先に県政運営に取り組んできた。新型コロナウイルスや大規模自然災害など、県民生活や地域経済に大きな影響を与える出来事

学校一つになった場合に、藤島地域にどんな影響を与えるか。学校と地域との関係がどうなるのか。

「遠い集落は、直行便タイプにするなど、できるだけ通学時間を短くする方法を検討する必要があります。」

教育長 具体的には、藤島地域の特色である農業や食文化・伝統芸能などを学校の力リキユラムに取り入れ、地域を題材とした学習を通して地域との関係・活動が希薄にならないよう、検討していく。

小中一貫校の整備は今後、地域住民と一緒に検討組織を立ち上げる。

本市では、学校運営協議会制度、いわゆるコミュニティ・スクールの設置を来年度、全市の中学校ブロックで導入する予定であり、藤島地域でも地域と学校との協働活動が促進されるように取り組んでいく。

この取組は、地域の理解と合意、そして運営への協力なくして進められない事業であり、この検討組織を通じ、意見を聞きながら、課題の解消に対応していく。

問 遠距離になり、通学が不便になった地域から子どもがいなくなるのではないかと。自治体間で子どもや若者世代の取り合いになったときに、学校が1つしかない場合の影響をどう考えるのか。

教育長 まず地域の住民としっかり話し合いを進めていきたいと考えている。

問 平成大合併は来年で20年になる。自立を選択した三川町は、住宅開発で若者世代の定着や、子育て施設の整備、企業誘致で、1人当たりの住民所得、出生率は県内でトップレベルだ。

政策について聞く。企画部長 旧町村地域の振興は、今年3月に策定した第2次総合計画の後期基本計画に基づき、中心部や地域がコンパクトな拠点を形成し、

人流・物流なしに旧町村の発展ない

問 平成大合併は来年で20年になる。自立を選択した三川町は、住宅開発で若者世代の定着や、子育て施設の整備、企業誘致で、1人当たりの住民所得、出生率は県内でトップレベルだ。

本市の旧町村の開発

(県議 関 徹)

(2面につづく)

熊本地震から学ぶ自治体・地域・市民の役割

鶴岡市防災講演会 熊本市長・大西一史氏が基調講演



熊本地震では余震の対応があったため、本震での避難はスムーズに行われ、直接死6人であったが、その後の避難所環境（トイレ設備等）により、高齢者による肺炎や栄養障害による関連死が82人に及んだ。避難生活が始まっても、公助（食料や水）が届くまでには4〜5日は掛かるため、4〜5日分の食糧や水等は自分で確保しておくことが必要である。

（1面のつづき）道路や交通ネットワークでつながる多極ネットワーク型のまちづくりを進めていきたい。問 三川町は、国道7号北バイパスの整備があり、全農が全国一大きな米倉庫を建設した。本来、南部中央道路ができていれば、米倉

庫は農業の中心地、藤島に建設されるはずだったと思うが。藤島庁舎支所長 庄内 南部中央道路は、日本海沿岸東北自動車道と新庄酒田道路との広域ネットワークとして、新潟方面と新庄・最上地域を結ぶもので、本市の産業振興を図る上で重要な路線である。

5月21日に鶴岡市重要事業要望会において、61項目の要望中、重点項目の一つとして意見交換を行い、県からは、情報共有に努めていくとの見解が示された。

今後は、担当課長会議で、事業費や費用対効果等の算定を進めていく。問 地域政策・開発政策・人流・物流がしっかりとしないと、旧町村の発展はない。道路は最重要課題として取り組むべきだ。

学生食料支援にご協力をお願いします

ほっとまんぶくプロジェクトは、長引く物価高と高すぎる学費に苦しむ学生を対象に、第5回食料支援活動を行います。当日は、学生アンケートもの実施し生活相談コーナーも設置します。



また市職員を地域に配置し、日頃から避難

鶴岡市防災講演会が6月29日、マリカ市民ホールで行われました。「熊本地震から学ぶ」自治体と地域、市民それぞれの役割」と題し、熊本市長の大西一史氏による基調講演が行われました。避難生活が始まっても、公助（食料や水）が届くまでには4〜5日は掛かるため、4〜5日分の食糧や水等は自分で確保しておくことが必要である。

また市職員を地域に配置し、日頃から避難

また市職員を地域に配置し、日頃から避難

ほっとまんぶくプロジェクト鶴岡

第5回 学生食料支援

7月15日(月) 14時~15時30分
鶴岡市勤労者会館 1F 大ホール
鶴岡市泉町 8-57

ほっとまんぶくプロジェクト鶴岡は、市内在住の学生を対象に食料を無料配布するとともに学生の実態アンケート調査しています。くらしのこと、将来のこと、バイトの労働相談等なんでも相談に乗ります。お気軽に声をかけてください！

★学生ボランティア大募集★
会場設営や仕分けなど都合の良い時間で結構です。当日は、13時00分から会場準備を行います。ご協力をお願いします！

連絡先 ほっとまんぶくプロジェクト鶴岡 (体間)
TEL 090-2279-3953 mail: tandpower5280@yahoo.co.jp

生を対象に、第5回食料支援活動を行います。当日は、学生アンケートもの実施し生活相談コーナーも設置します。食料品は、もちろん、ティッシュや洗剤などの生活用品も提供します。ご協力をよろしくお願ひします。

入札結果 () 内は予定価格	6月27日入札分
・市立あおば学園門扉改修工事 不調 ・広瀬地区地域活動センター講堂等照明LED化工事（羽黒町後田字下田元237番地）（入札9業者うち辞退3業者） （有）新興電気設備 1,500,000円（1,790,000円） 工期~8/30(余裕期間設定工事）（落札率83.80%）	
土木課入札結果 () 内は予定価格	6月27日入札分
・市道沢山木揚場線岩川橋道路改良工事（大岩川地内）（入札3業者うち1業者欠席） 菅原建設(株) 26,880,000円（27,490,000円）工期~11/29（落札率97.78%） ・市道道形文下蛾眉橋線歩道設置工事（宝田三丁目地内）（入札1業者） 有賀建設(株) 30,000,000円（30,020,000円）工期~11/29（落札率99.93%）	
水道課入札結果 () 内は予定価格	7月1日入札分
・本町二丁目地内径150、100配水管及び消火栓移設工事（本町二丁目地内）（入札4業者うち1業者失格） （株）板垣水道 14,390,000円（14,590,000円）工期~10/31（落札率98.63%）	